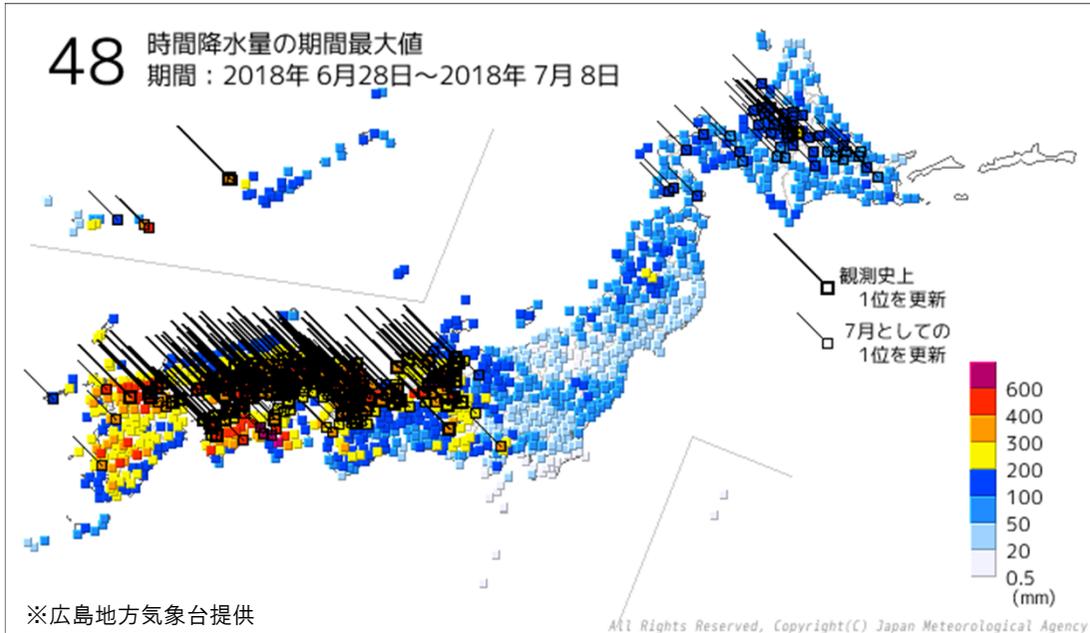


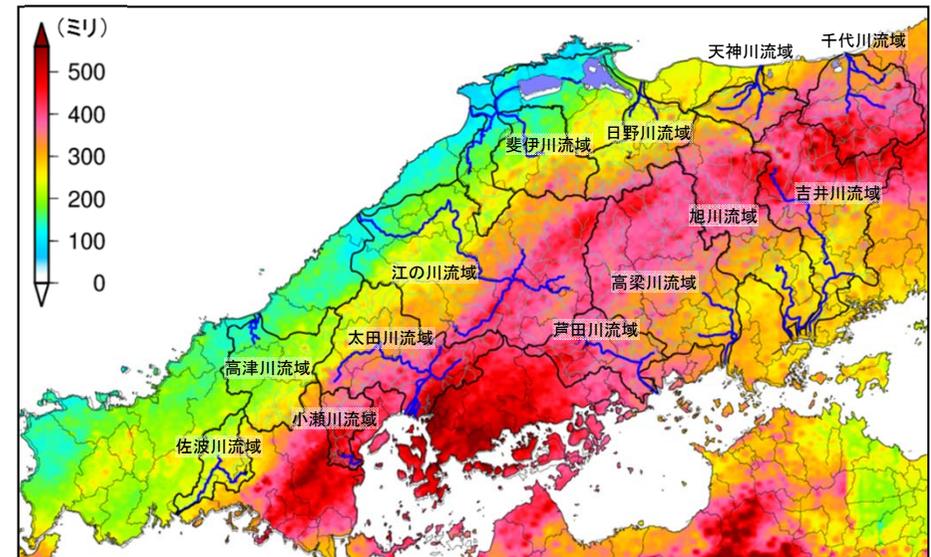
# 1. 気象及び出水の概要

# 気象の特徴

- 平成30年7月豪雨は、特に2~3日間（48時間~72時間）の降水量が記録的に多い地域が、**普段雨の少ない瀬戸内地方を含め、西日本から東海地方を中心に広い範囲にわたった**ことが大きな特徴でした。
- 降水量としては、山陰側に比べ、**中国山地の南側や瀬戸内海沿岸に多く**降りました。
- いくつかの地域・時間帯においては、**局地的に線状降水帯が形成され、激しい雨が数時間降り続き、周囲に比べてさらに総雨量が多**くなりました。

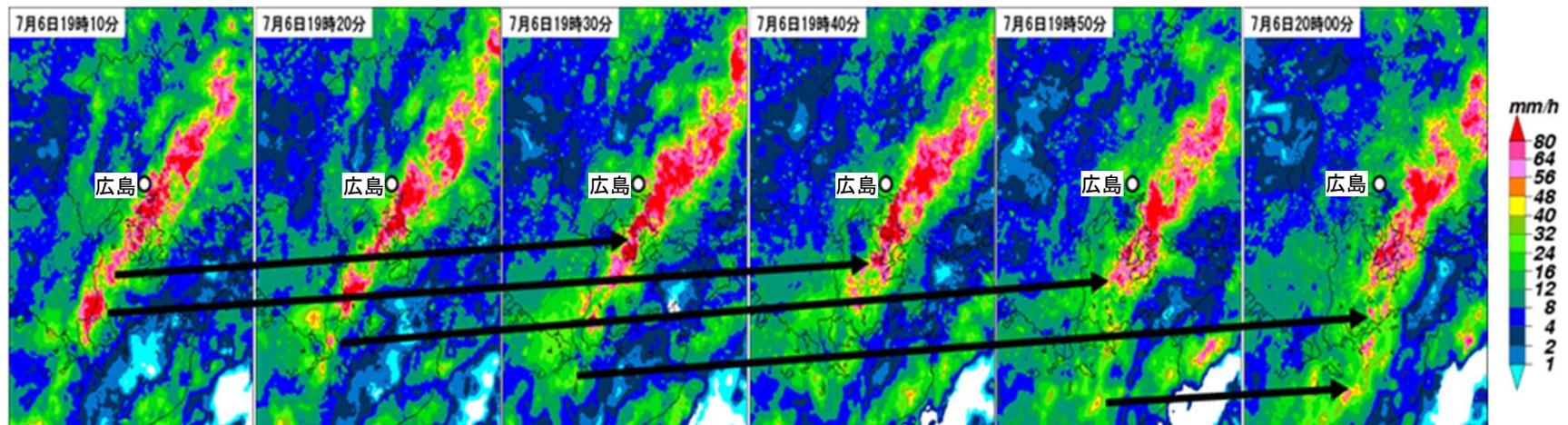


雨量分布図(解析雨量)(7/5 0:00~7/9 9:00)



※広島地方気象台提供資料を一部加工

広島県で発生した線状降水帯。  
7月6日19時10分~20時00分  
の実況の高解像度降水ナウ  
キャストによる降水強度分布  
(mm/h)の10分毎の時系列。  
矢印は線状降水帯を形成する  
積乱雲の動きを示す。



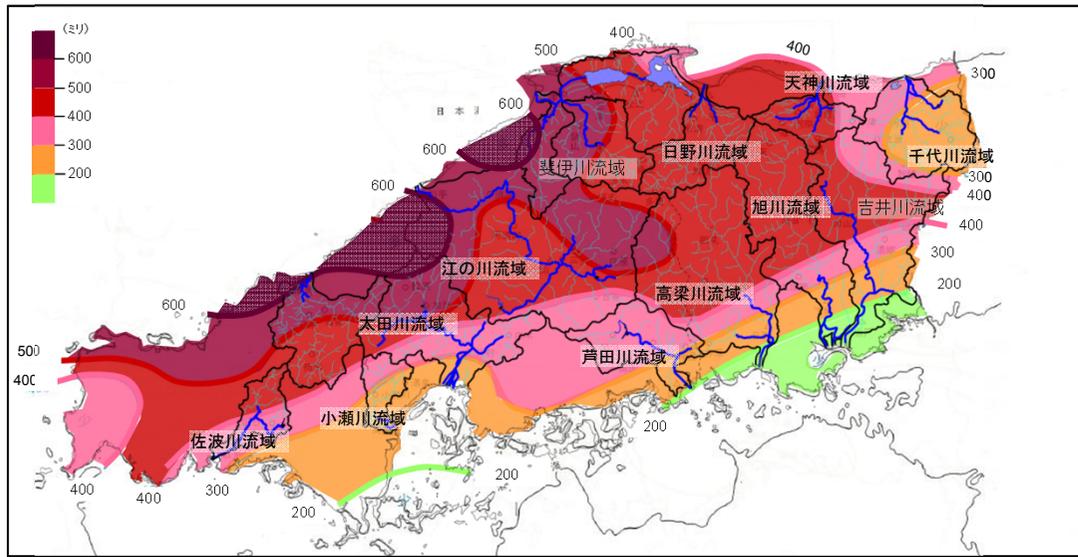
※広島地方気象台提供

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

# 昭和47年7月豪雨との比較

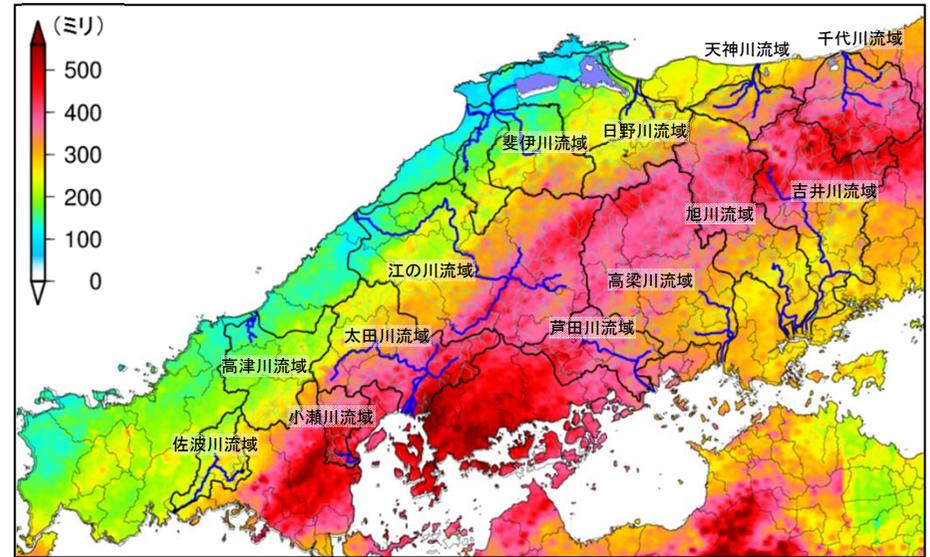
- 中国地方における過去の豪雨災害として著名な昭和47年7月豪雨と平成30年7月豪雨の総雨量分布を比較すると、**ともに梅雨前線の影響により広い範囲で大量の雨が降っており、昭和47年7月豪雨は日本海側で雨が深く、平成30年7月豪雨は瀬戸内海側に多い傾向**となっています。
- 主要地点の時間雨量を比較すると、**両洪水とも2~3日の間に3回程度の降雨の山があり、時間雨量で10mmから30mm程度のまとまった雨が長時間降り続けています。時間雨量10mm以上の降雨を記録した時間は平成30年7月豪雨の方が長く、累加雨量（3日雨量）も昭和47年7月豪雨を上回っています。**

【昭和47年7月豪雨】総雨量分布図(1972/7/9~7/13)



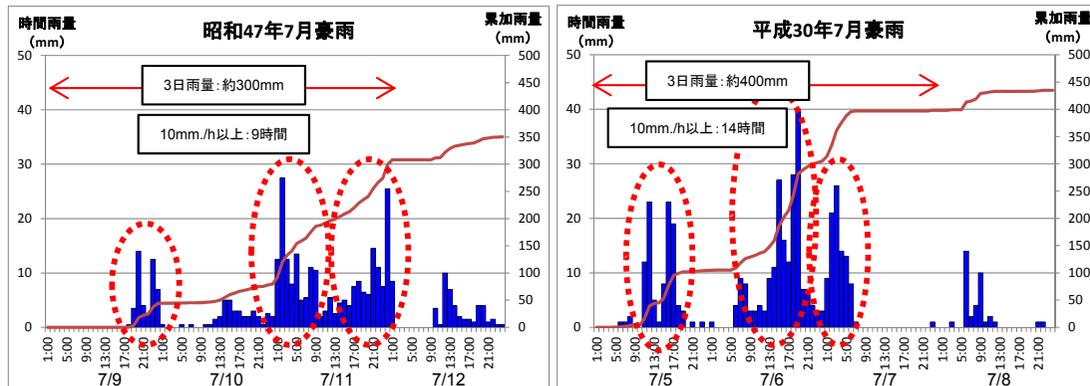
※「昭和47年7月豪雨災害誌」(建設省中国地方建設局)資料を一部加工

【平成30年7月豪雨】雨量分布図(解析雨量)(2018/7/5 0:00~7/9 9:00)

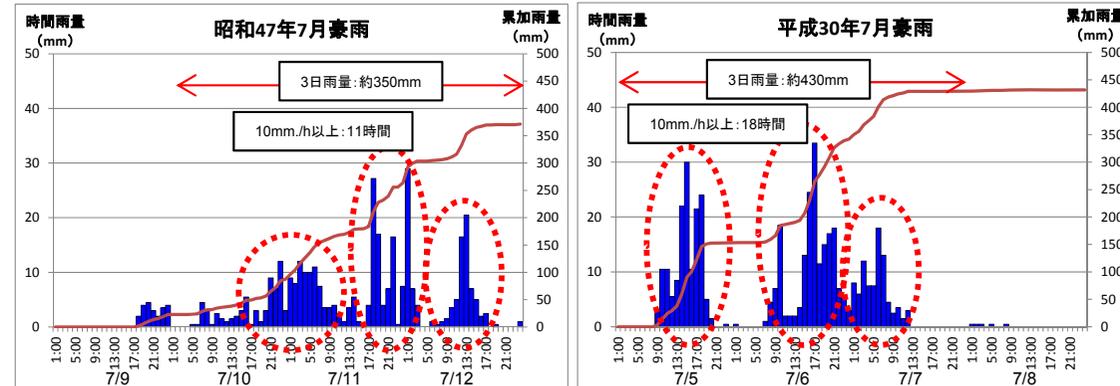


※広島地方気象台提供資料を一部加工

江の川 吉田雨量観測所での時間雨量の比較



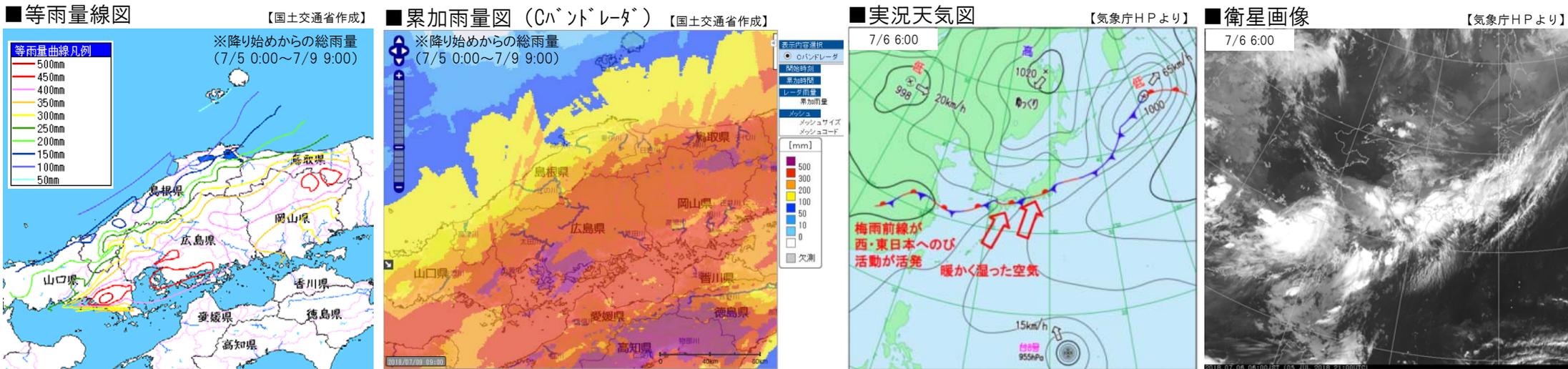
高梁川 新見雨量観測所での時間雨量の比較



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

# 出水概要

- 7月5日(木)から本州付近に停滞する梅雨前線の活動が活発になり、中国地方では降り始めからの総雨量が450mmを超え、**昭和47年7月豪雨以来の記録的な豪雨**となりました。7月6日(金)には**広島県、岡山県、鳥取県**に大雨特別警報が発表されました。
- 岡山県では、高梁川水系の新見市新見地点、倉敷市倉敷地点等で、**観測史上1位の降水量**(48時間累加雨量)を記録しました。
- 今回の出水では6水系13河川23観測所で「氾濫危険水位」を超過、7水系9河川11観測所で「避難判断水位」を超過、7水系7河川14観測所で「氾濫注意水位」を超過しました。
- また、倉敷市(岡山)を流れる高梁川、福山市(広島)を流れる芦田川、三次市(広島)を流れる江の川など、「氾濫危険水位」を超過した河川のうち、5水系9河川13観測所で**観測史上最高水位**を記録しました。



### ■観測史上1位を記録した主な雨量観測所

《48時間累加雨量》

- 高梁川水系 新見 (岡山県新見市) : 392.5 mm/48hr
- 倉敷 (岡山県倉敷市) : 260.0 mm/48hr
- 芦田川水系 世羅 (広島県世羅町) : 361.5 mm/48hr
- 江の川水系 庄原 (広島県庄原市) : 381.5 mm/48hr
- 太田川水系 三入 (広島県広島市) : 374.5 mm/48hr

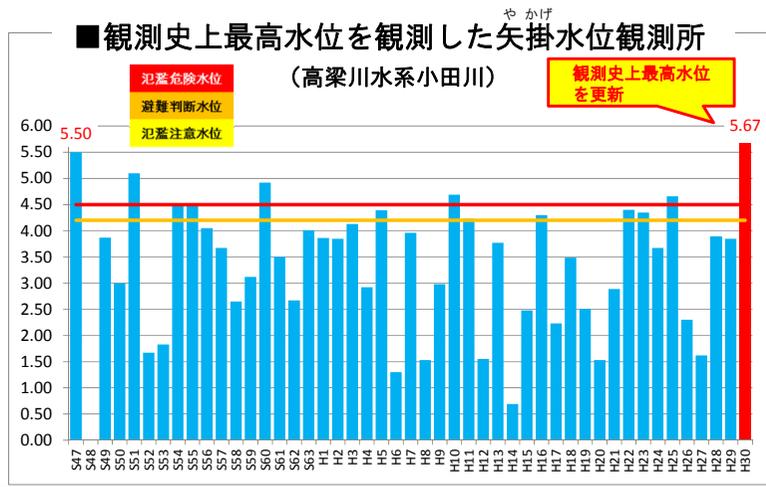
《24時間累加雨量》

- 高梁川水系 新見 (岡山県新見市) : 235.0 mm/24hr
- 芦田川水系 世羅 (広島県世羅町) : 259.0 mm/24hr
- 江の川水系 庄原 (広島県庄原市) : 256.5 mm/24hr
- 太田川水系 三入 (広島県広島市) : 263.5 mm/24hr

### ■氾濫危険水位を超過した観測所のうち観測史上最高水位を記録した主な水位観測所

江の川水系	川本	14.21m
	尾関山	13.40m
吉井川水系	津瀬	10.56m
旭川水系	下牧	9.62m
	原尾島橋	6.94m
高梁川水系	矢掛	5.67m
	酒津	12.36m
	白羽	13.12m
芦田川水系	山手	5.97m

他4観測所



【気象庁HPより (2018. 6. 28~2018. 7. 9) 9:00現在】

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

# 国管理河川の概況

■ 今回の出水では**6水系13河川23観測所**で「**氾濫危険水位**」を超過、**7水系9河川11観測所**で「**避難判断水位**」を超過し、**25の市町**から避難勧告、避難指示（緊急）が発令されました。

■ **高梁川水系小田川**では堤防が決壊し、岡山県倉敷市真備町において大規模な浸水被害が発生するなど、**各地で甚大な被害が発生**しました。

## 河川出水状況（国管理区間）

氾濫危険水位超過 6水系13河川 23観測所	江の川水系	江の川（川本、谷住郷、川平、都賀、大津、尾関山、粟屋、吉田）
	馬洗川	（南畑敷）
	西城川	（三次）
	吉井川水系	吉井川（津瀬）
	金剛川	（尺所）
	旭川水系	旭川（下牧、三野）
避難判断水位超過 7水系9河川 11観測所	高梁川水系	高梁川（酒津、日羽）
	小田川	（矢掛）
	芦田川水系	芦田川（山手、矢野原）
	高屋川	（御幸）
氾濫注意水位超過 7水系7河川 14観測所	太田川水系	根谷川（新川橋）
	三篠川	（中深川）
	千代川水系	千代川（行徳、用瀬、袋河原）
	八束川	（片山）
	日野川水系	日野川（溝口）
避難指示（緊急）が発令された主な市町村（国管理区間）	江の川水系	神野瀬川（神野瀬川）
	高津川水系	高津川（高角）
	吉井川水系	吉井川（御休）
	太田川水系	太田川（矢口第一）
	古川	（古川）
	佐波川水系	佐波川（漆尾）
	天神川水系	天神川（小田、竹田橋）
日野川水系	日野川（車尾）	
高津川水系	高津川（神田）	
斐伊川水系	斐伊川（木次、新伊萱、灘分）	
旭川水系	旭川（相生橋）	
太田川水系	太田川（土居、加計、飯室、祇園大橋）	
小瀬川水系	小瀬川（小川津、高国橋）	

※観測所でのレベル超過

## 避難指示（緊急）が発令された主な市町村（国管理区間）

- 岡山県 岡山市、総社市、倉敷市、赤磐市、等
- 広島県 府中市、福山市、安芸高田市、三次市、等

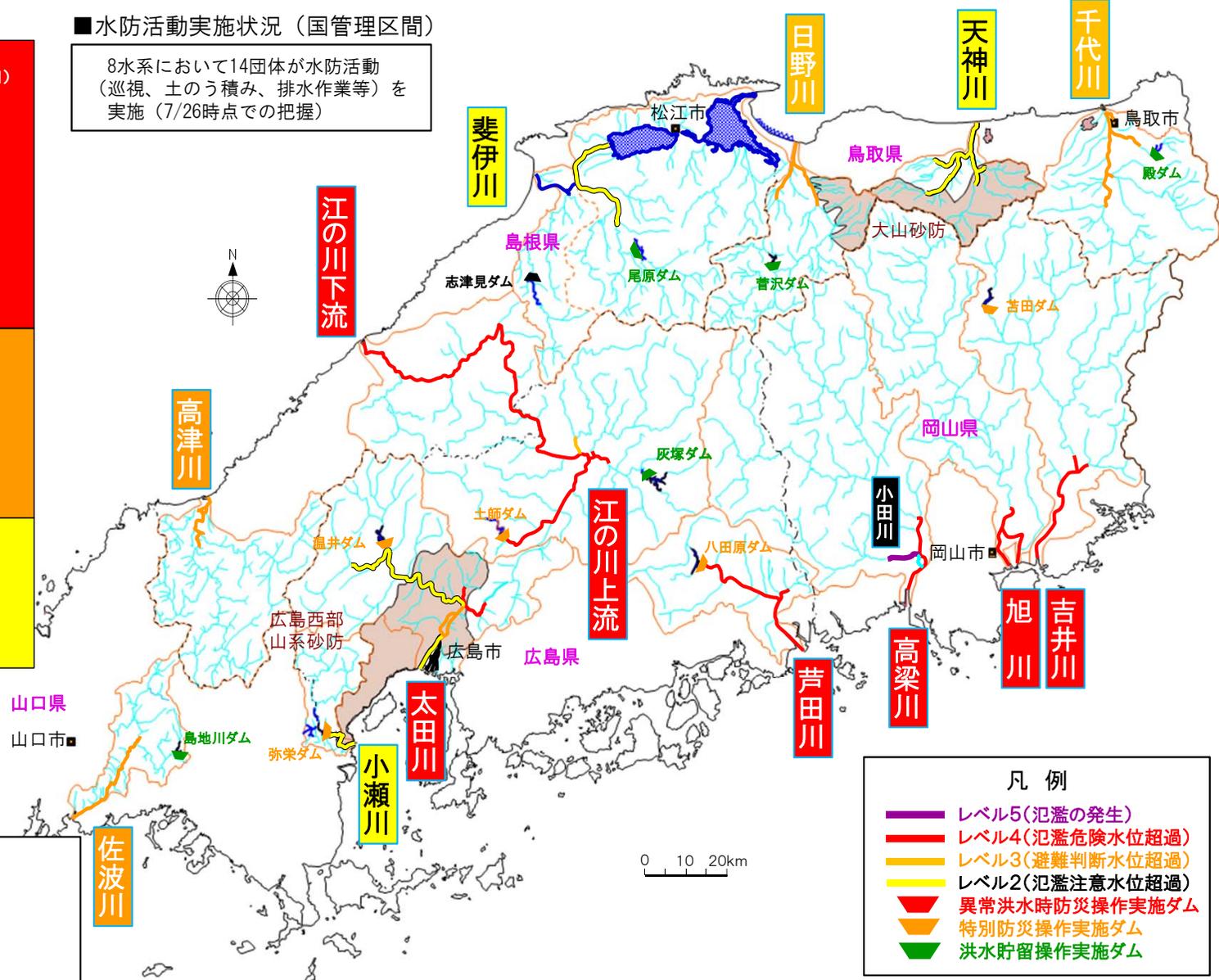
## 主な一般被害（国管理区間）

★高梁川水系小田川沿川の被害状況（岡山県倉敷市真備町）  
 浸水面積※1：7/7AM 約1,200ha、7/9AM 約500ha、  
 7/11 宅地・生活道路については概ね解消  
 浸水戸数※2：約4,600棟  
 避難者数※3：3,675名（倉敷市全体）

※1：国土交通省中国地方整備局調査による推定  
 ※2：おかも防災ポータルHP（7/11 8時現在）より浸水戸数の最大  
 ※3：倉敷市HP（7/9 8時現在）より避難者数の最大

## 水防活動実施状況（国管理区間）

8水系において14団体が水防活動（巡視、土のう積み、排水作業等）を実施（7/26時点での把握）



凡例

（紫線）	レベル5（氾濫の発生）
（赤線）	レベル4（氾濫危険水位超過）
（黄線）	レベル3（避難判断水位超過）
（黄線）	レベル2（氾濫注意水位超過）
（赤三角）	異常洪水時防災操作実施ダム
（黄三角）	特別防災操作実施ダム
（緑三角）	洪水貯留操作実施ダム

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

# 主な一般被害(中国地方5県)

- 平成30年7月豪雨における中国地方5県の死者数は172人、行方不明者は9人にのぼっています。(※8/7時点)
- 住家被害は中国地方5県で30,000戸を超え、断水や停電などライフラインにも甚大な被害を与えました。

## 平成30年7月豪雨における主な一般被害

分類	項目	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	中国5県計	【参考】 S47.7豪雨 中国5県計	備考
人的被害	死亡者(人)	0	0	61	108	3	172	94	
	行方不明者(人)	0	0	3	6	0	9	6	
住家被害	全壊(棟)	0	69	4,107	697	18	4,891	1,356	
	半壊(棟)	0	154	1,734	1,929	177	3,994	4,044	
	一部損壊(棟)	3	2	520	1,750	47	2,322	10,634	
	床上浸水(棟)	7	4	4,530	2,899	266	7,706	24,297	
	床下浸水(棟)	54	65	6,094	4,688	634	11,535	75,026	
	計	64	294	16,985	11,963	1,142	30,448	115,357	
ライフライン	断水(戸)	約970	約280	約20,370	約219,000	約200	約240,820	最大	
	停電(戸)	約760	-	約4,090	約20,700	約20,300	約45,850	最大	

※人的被害及び住家被害については、内閣府HPより(8/7 11:30現在)

※ライフラインについては、右記のとおり  
(数値は丸めている)

鳥取県HPより  
※7/20 17:30時点

島根県HPより  
※7/13 12:00時点

岡山県HPより  
※断水については、  
7/7 17:00時点  
※停電については、  
7/7 11:00時点

広島県HPより  
※断水については、  
区域の概ねの最大  
値を中国地方整備局  
において集計  
※停電については、  
7/7 17:00時点

山口県HPより  
※7/26 10:00時点

※「昭和47年7月豪雨災害誌」(建設省中国地方建設局)より

※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

# 管内の直轄管理ダムによる洪水調節

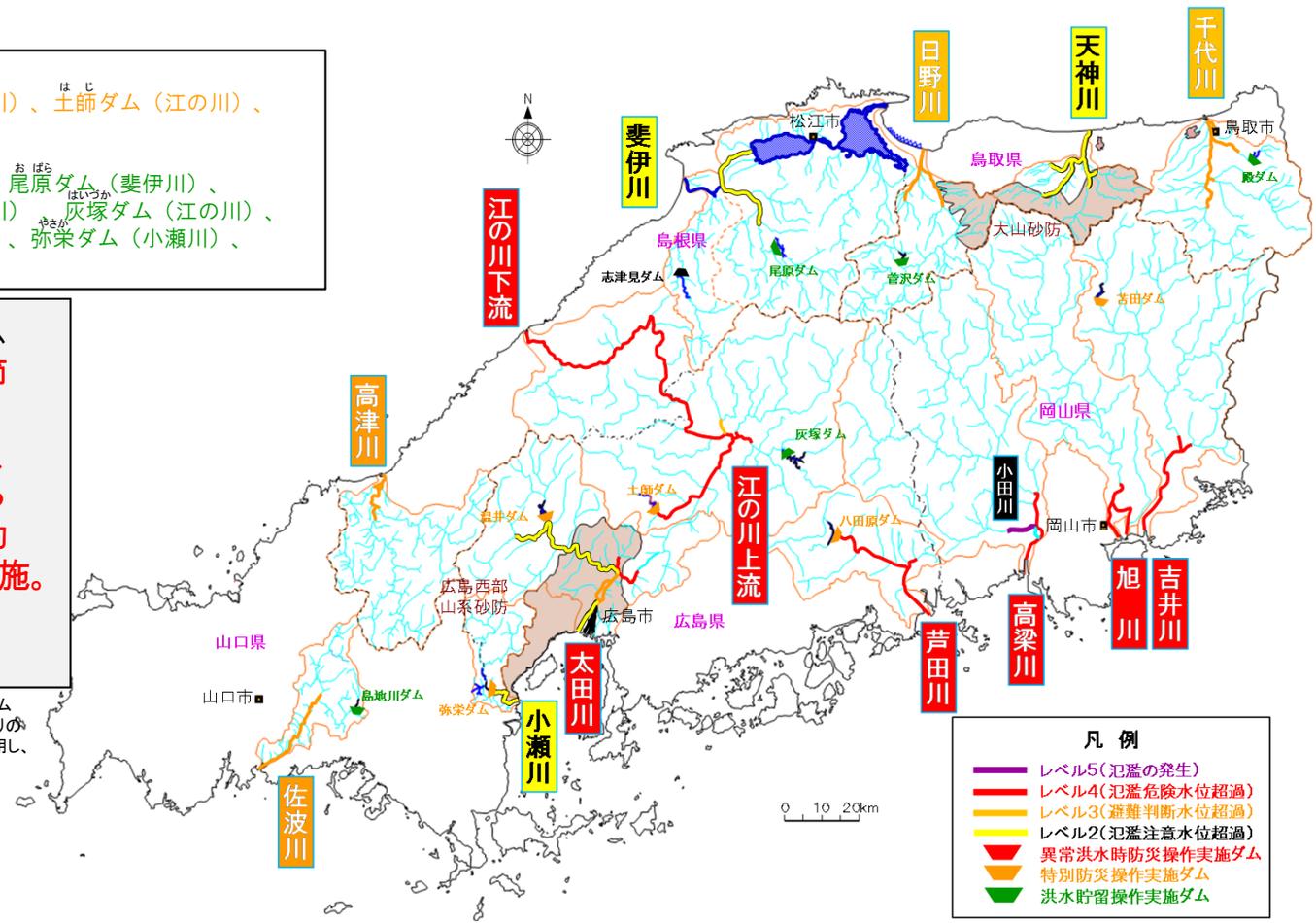
■7月5日(木)から8日(日)までに、洪水調節を行った管内の直轄管理の10ダムで、約1億2千万m<sup>3</sup>の洪水を貯留しました。

## ■洪水調節状況(国管理ダム)

- ★特別防災操作<5ダム>  
 吉田ダム(吉井川)、八田原ダム(芦田川)、土師ダム(江の川)、  
 温井ダム(太田川)、弥栄ダム(小瀬川)
- ★洪水貯留操作<10ダム>  
 殿ダム(千代川)、菅沢ダム(日野川)、尾原ダム(斐伊川)、  
 吉田ダム(吉井川)、八田原ダム(芦田川)、灰塚ダム(江の川)、  
 土師ダム(江の川)、温井ダム(太田川)、弥栄ダム(小瀬川)、  
 島地川ダム(佐波川)

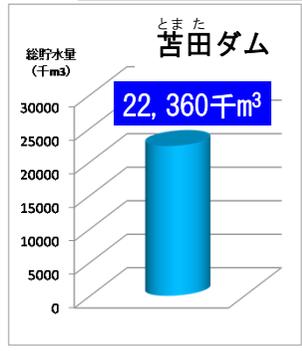
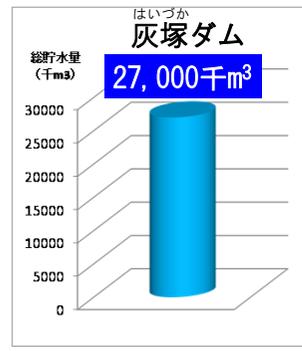
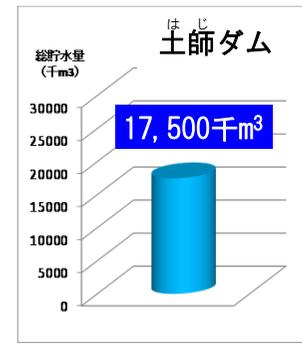
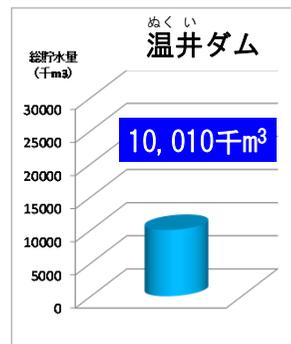
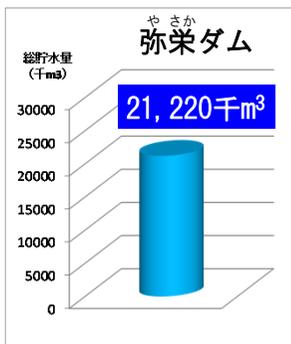
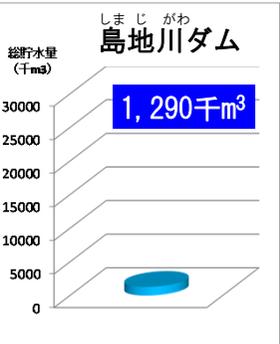
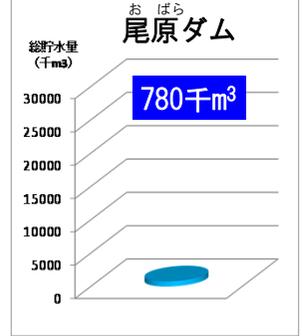
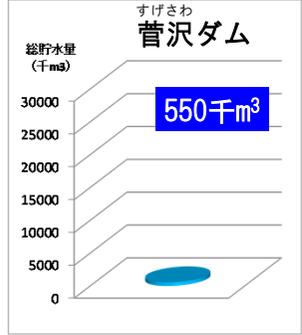
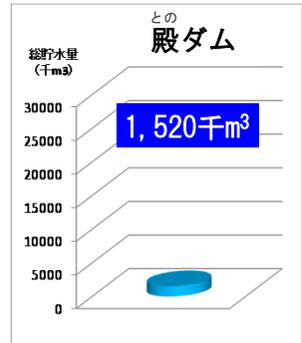
- 中国地整管内の直轄管理ダムにおいて、10ダムが洪水調節を実施。
- そのうち、5ダムで予測雨量、ダムの空容量を勘案しながらダムの機能を可能な限り有効活用する特別防災操作※を実施。
- 10ダムで、約1億2千万m<sup>3</sup>の洪水を貯留。

※「特別防災操作」とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の水位等の状況に応じて、今後の予測雨量、ダムの残りの貯水容量等を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を通常よりも減じる操作。



**凡例**

- レベル5(氾濫の発生)
- レベル4(氾濫危険水位超過)
- レベル3(避難判断水位超過)
- レベル2(氾濫注意水位超過)
- 異常洪水時防災操作実施ダム
- 特別防災操作実施ダム
- 洪水貯留操作実施ダム



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。